

山仕事は 初心に戻って！



労働災害発生防止研修会 9/24(木)

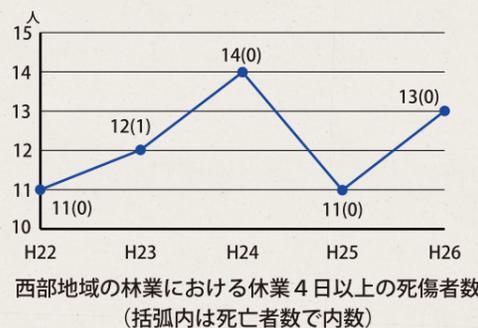
伐採時の労働災害発生を防ごう

日野郡内で8月から立て続けに2件の死亡事故が発生したことを受け、9月24日に米子労働基準監督署と林業・木材製造業労働災害防止協会から講師を招いて、伐採作業に携わる方を対象にした研修会を開催しました。

当日は県西部地域から85名の参加があり、全体研修と班別ミーティングで防災の意識を高めました。

全体研修の概要

- ・西部地域では過去3年間、死亡事故は無かったが、捻挫や骨折等は毎年10件以上発生。
- ・林業労働災害は初心者（技術不足など）とベテラン（油断）の割合が高い。
- ・防災は、基本的な手順を守ることが重要。
- ・労働災害は、被災者の被害に加え、企業や他の従業員に刑事責任や賠償が発生することがある。労働者は自分の身だけでなく周囲に影響が及ぶことを、企業は様々な不利益事項が発生することを再認識して、防災に向けた活動に取り組んで欲しい。



班別ミーティングの概要

参加者同士でヒヤリハット体験を話し合い、次のような状況の時に気をつけるよう確認しました。

経験が不足する作業を行うとき
気持ちに余裕が無いとき
ポーンとしているとき
難しい作業のとき

林業関係者の皆様 ご活用ください

とっとり森林緊急通報カード

県が労働災害発生時に被災者の早期救助と被害軽減を図るため、救援隊をできるだけ早く被災現場に呼び取り組みとして考案しました。

(記入例等⇒ <http://www.pref.tottori.lg.jp/item/997663.htm#moduleid302220>)

林業・木材製造業労働災害防止規程

労働災害防止のために、作業時の服装や各作業の遵守事項等を定めている規則です。

(全文⇒ http://www.rinsaibou.or.jp/cont02/02_frm_c.html?items02/0202_01_idx.html)



まきストーブで ハウス早春加温



園芸試験場
日南試験地
(標高 550m)
で、内張りを
設けたハウス
内にトマトを

慣行より約1ヶ月早い4月中旬に定植し、5月中旬までストーブで夜間加温する栽培試験を行いました。その結果、生育、着果とも良好で6月下旬から収穫が可能となりました。

ストーブ近傍では土壌乾燥によるものと思われる尻腐れ果の発生が若干ありましたが、低温障害は見られず、7月上旬までに6t/10aの収量が得られました。

本年度、日野郡内では4戸の農家がまきストーブを導入予定であり、新たな活用法が生まれることを期待しています。



農閑期を利用した6次産業 トマトジュースの加工品製造



農閑期を利用して、日南トマト加工株式会社（日南町霞）はトマトのシーズン中に一次加工しておいたトマトジュースを材料に、ケチャップや焼き肉のたれなどに更に加工する作業が行われます。

大手メーカーの商品は機械で自動生産されますが、ここでは完全ハンドメイドで製造されます。また、冬場には、米子市内の契約農家の人参を仕入れ人参ジュースも製造していて、農閑期でも大忙しです。

一年を通して働くことができる雇用の場になっています。



冬はしいたけ ビニールハウスを活用した栽培



増田雅広さんは、平成24年度の原木しいたけ新規生産者講座を受講され、

日南町でしいたけ栽培を始められました。

春から秋にかけては（株）増田林業の社長として林業に熱心に取り組み、冬場にはしいたけ生産者としてビニールハウス内でしいたけ栽培をされています。

生しいたけと干しいたけをスーパーマーケットで販売されており、美味しい原木しいたけで冬場の食卓を賑わせるよう取り組まれています。

現在、鳥取県がブランド化を進めている115号菌を植菌され、自前の木製ビニールハウスにしいたけほだ木を入れて栽培されており、良質のしいたけを早く沢山作る工夫をされています。

林業会社という一面を有する一方、しいたけ栽培にも熱心に取り組まれ、年間を通じて技術研鑽の日々です。



冬こそ鳥獣対策が大事 エサになる食物を捨てないで

意外に思われるかもしれませんが、冬場の対策こそが鳥獣被害を減らすための重要なポイントです。

どのような対策を行うかと言うと、ワイヤーメッシュ柵や電気柵などで集落へ入ってこないようにするのではなく、冬場の餌になるものを無くして、イノシシにとって魅力の無い集落にすることです。具体的には、家庭で発生した生ゴミを写真のように田んぼや畑などに捨てず、コンポスターを利用するとよいでしょう。



冬も頑張る農林業

日野郡では、雪に負けない農業・林業を進めるため様々な取り組みが行われており、その一例を紹介いたします。